

3 種 混 合 ワ ク チ ン と ポ リ オ ワ ク チ ン の 接 種 を 受 け ま し ょ う 。

2012(平成24)年9月から、
不活化ポリオワクチンが導入されます。

- ◆生ポリオワクチンに代えて、不活化ポリオワクチンが導入されます。
- ◆単独の不活化ポリオワクチンの定期接種は、9月1日から開始されます。
- ◆ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオワクチン(DPT-IPV)の4種混合ワクチンの定期接種は、11月からの導入に向けて準備が進められています。

生後3ヶ月を迎えたら、
3種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンの
接種を受けましょう。

- ◆ジフテリア・百日せき・破傷風(DPT)の3種混合ワクチンの接種を遅らせることはおすすめできません。
- ◆乳児が百日せきにかかると、重症化し、命に関わることもあります。
- ◆4種混合ワクチンの導入を待つことはせず、生後3ヶ月を過ぎたらできるだけ早く3種混合ワクチンを接種することが望ましいです。

不活化ポリオワクチン導入前に
1回目の生ポリオワクチンを接種した方は、
2回目以降は不活化ポリオワクチンを
受けることとなります。

- ◆生ポリオワクチンを1回接種した方は、2012(平成24)年9月以降に不活化ポリオワクチンを3回接種することとなります。
- ◆生ポリオワクチンをすでに2回接種された方は、不活化ポリオワクチンの接種は不要です。

不活化ポリオワクチンの定期接種は、 このように行います。

■接種方法が変わります

- ◆生ポリオワクチンは経口接種（口から飲む）でしたが、不活化ポリオワクチンは皮下接種（皮下に注射）となります。

■不活化ポリオワクチンの接種方法は、3種混合ワクチンと同じです

- ◆不活化ポリオワクチンの対象年齢、接種間隔、標準的な接種年齢は、これまでの3種混合ワクチン（DPT：ジフテリア・百日せき・破傷風）と同じです。

■4回（初回3回・追加1回）の接種が必要です

- ◆不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日から56日までの間隔をおいて3回、また追加接種として初回接種終了後6か月以上の間隔をおいて1回、合計4回の接種が必要です。
 - （※）単独の不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日以上の間隔をおけば接種可能であり、接種間隔の上限はありません。
 - （※）単独の不活化ポリオワクチンは、追加接種が現在国内臨床試験実施中であり、今後、試験データが整い次第、追加定期接種として実施開始する予定です。
- ◆海外等で既に不活化ポリオワクチンを1～3回接種されている方については、生後90月（7歳6ヶ月）に至るまでの間であれば、不足分の接種を受けることができます。

■初回接種は生後3か月から12か月の間に受けましょう

- ◆標準的な初回接種（1～3回目）の接種年齢は、生後3か月から12か月です。
- ◆生後90月（7歳6か月）に至るまでの間であれば、過去に生ポリオワクチンを受けそびれた方も、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けていただくことが可能です。

■通年で接種できるようになります

- ◆生ポリオワクチンによる定期接種は、多くの市町村で春・秋に行われてきましたが、不活化ポリオワクチン導入後は、多くの市町村で通年接種が可能になります。
- ◆多くの市町村では、市町村（保健所）での集団接種から、医療機関での個別接種に変更される予定です。

ポリオワクチンを接種することが、 ポリオを予防する唯一の方法です。

- ◆日本では、2000年にポリオの根絶を報告しましたが、世界には、今でも流行している地域があり、渡航者などを介して感染はどの国にも広がる可能性があります。
 - パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアなどでは、今でも流行がみられます。
 - いったんポリオが根絶された中国などでも、最近流行が起こったことが報告されています。
- ◆このため、ポリオの根絶に向けて、世界中でワクチンの接種が行われています。
 - きちんとワクチンを接種し、ほとんどの人が免疫をもてば、海外でポリオが流行しても、国内での流行を防ぐことができます。

ポリオワクチンに関する情報は、厚生労働省ホームページでご案内しています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/index.html>